

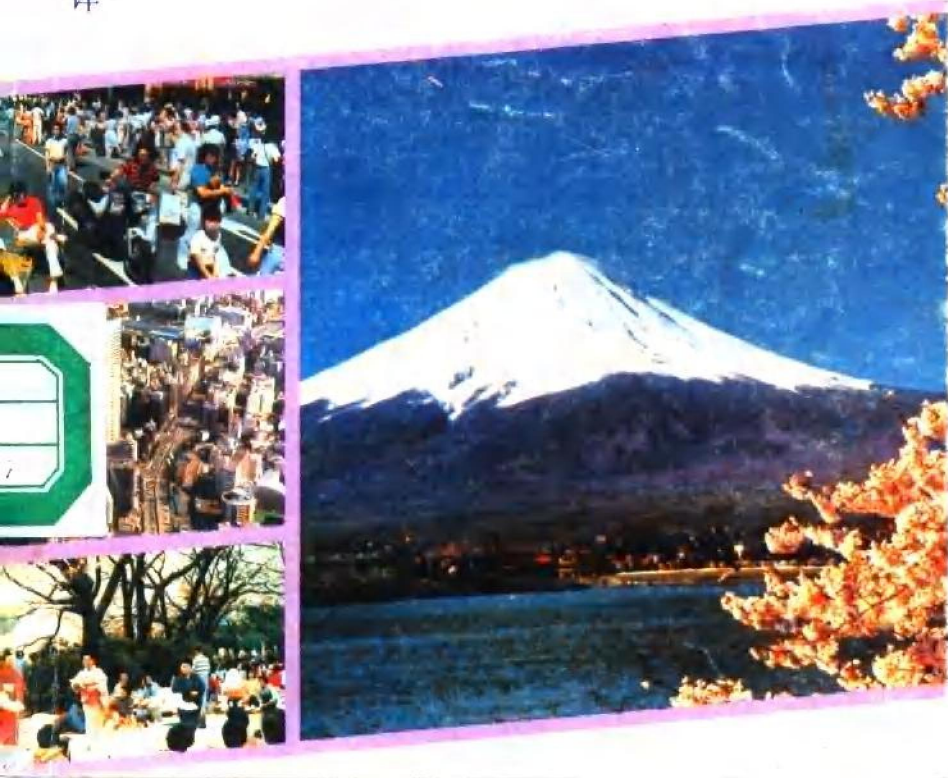


天津人民广播电台
广播讲座听力教材

趣味日语

楽しみながら日本語を

马秀兰 王健宜 崔强 马建立 编译



天津人民广播电台外语广播讲座听力教材

趣味日语

楽しみながら日本語を



北京日报出版社

0133600

趣 味 日 语

(上、下册)

马秀兰 王建宜 编译
崔 强 马建立

*

北京日报出版社出版发行

(北京市东单西裱糊胡同 34 号)

新华书店经销

北京印刷三厂印装

787×1092 毫米 32 开本 8 印张 175 千字

1989 年 3 月第 1 版 1989 年 3 月第 1 次印刷

印数 00,001—31,000

ISBN 7-80502-119-8/G·0061

定 价: 4 元

出 版 说 明

为给日语自学读者提供一本有趣的听力教材，从而也为读者进一步学习日本文学作品奠定基础，我们从80年代日本最新教学读物中精选了40篇故事，做为电台广播日语讲座的听力教材。这本教材内容丰富，趣味性强，情节引人入胜，语言地道，适合大专学生及自学者学习；也可做为日语听力辅导教材，同时编译几首日本流行歌曲，日汉对照歌词，配合广播讲座收听效果最佳。

目 录

(上 册)

第一讲	只当是·····	(1—4)
第二讲	平林·····	(5—10)
第三讲	乞丐与福神·····	(11—14)
第四讲	病人笨(一) 乔迁礼物(二)·····	(15—18)
第五讲	春天快快来·····	(19—25)
第六讲	酒鬼父子(一) 东西南(二)·····	(25—29)
第七讲	放风筝(一) 遗嘱(二)·····	(30—33)
第八讲	盲人叔叔·····	(34—39)
第九讲	看清楚(一) 致谢(二)·····	(40—44)
第十讲	卖萝卜的人·····	(45—50)
第十一讲	神奇的碗·····	(51—57)
第十二讲	神奇的碗·····	(58—63)
第十三讲	想必您一定聪明(一) 新鲜(二)·····	(64—67)
第十四讲	狐狸和葡萄·····	(68—73)
第十五讲	丢东西(一) 灯笼(二)·····	(74—80)
第十六讲	变成青蛙(一) 脚擦地皮儿(二)·····	(81—90)
第十七讲	金密柑(一)·····	(85—92)
第十八讲	金密柑(二)·····	(92—98)
第十九讲	金密柑(三)·····	(99—106)
第二十讲	偷柿子的贼·····	(107—112)

(下 册)

第二十一讲	三头小牛(一).....	(115—122)
第二十二讲	三头小牛(二).....	(123—129)
第二十三讲	三头小牛(三).....	(130—137)
第二十四讲	予预万一(一) 名牌(二).....	(138—141)
第二十五讲	安全游泳法(一) “川”字(二).....	(142—147)
第二十六讲	海幸彦和山幸彦(一).....	(148—155)
第二十七讲	海幸彦和山幸彦(二).....	(156—164)
第二十八讲	海幸彦和山幸彦(三).....	(165—170)
第二十九讲	投胎转世(一) 摘星星(二).....	(171—174)
第三十讲	爸爸的眼(一) 庸医(二).....	(175—180)
第三十一讲	因幡的白兔(一).....	(181—187)
第三十二讲	因幡的白兔(二).....	(188—194)
第三十三讲	因幡的白兔(三).....	(195—199)
第三十四讲	坛子(一) 午睡(二).....	(200—203)
第三十五讲	下巴与脚后跟.....	(204—208)
第三十六讲	七姑娘.....	(209—219)
第三十七讲	不在家(一) 问问马吧(二).....	(220—224)
第三十八讲	神奇的镜子(一).....	(225—231)
第三十九讲	神奇的镜子(二).....	(232—241)
第四十讲	“万”字(一) 屁股不同(二).....	(242—249)

第一 讲

つもり

あるけちんぼうな男^{おとこ}がおりました。

まい日^{にち}まい日^{にち}、ごはん^{はら}どきになると、うなぎ屋^やの前^{まえ}へで
かけていって、腹^{はら}いっぱいにおい^{いえ}をかぎ、家^{いえ}へとんで帰^{かえ}
って、ごはん^たを食^たべるのでした。

それに氣^きがついたうなぎ屋^やの親父^{おやじ}、

「なんちゆうけちだ。よし、あのようなやつから、におい
のかぎ賃^{ちん}を取^とってやろう。」

と、さっそく帳面^{ちようめん}につけておき、月末^{げつまつ}になると、かぎ
賃^{ちん}を取^とりにやってまいりました。

すると、けちんぼうな男^{おとこ}、

「おれは、うなぎ屋^やに借金^{しやつきん}はないぞ。」

「いやいや、これは、かば焼^{やき}のかき賃^{ちん}でございます。え
ー、しめて八百文^{ひやくちん}。におい^たをかいて食^たべたつもりになっ
ていられますので、こちら^{せに}も、食^とわせたつもりで錢^{ぜに}を取^と
りにきました。」

うなぎ屋^やが、すましていうと、男^{おとこ}はしかたなく、ふと
ころから八百文^{ひやくちん}取りだし、いきなり板^{いた}の間^まへほうりだし

ました。

チャリン。

おかねが、けいきのいい^{おと}音をたてるのをきいてから、け
ちんぽうな^{おとこ}男、
「それ、取^とったつもりで、^{ぜに}銭の^{おと}音をきいて、^{かえ}帰んな。」

〔言葉の意味と用法〕

1. つもり / (1) 事先的考虑、打算、计划、准备等。

△冬休みは旅行にでかけるつもりです。(寒假准备出去旅行。)

△冗談のつもりが本気にされた。(想开个玩笑，给当真了。)

△来年大学をうけるつもりです。(准备明年考大学。)

- (2) 只当……。

△旅行したつもりで、貯金する。(只当是去旅行了，把钱存起来。)

- (3) 估算、计算。

- (4) 自以为，自认为。

2. けちんぽう / 小气鬼、吝啬鬼。

3. うなぎ屋 / 专做烤鳗鱼的餐馆。

4. かぐ / 嗅、闻。

5. ……ごはんを食べるのでした / 这里的“のでした”

表示对在过去一段时间内经常、反复出现的动作做说明和解释。

6. なんちゅうけちだ / (=なんというけちだ) 多么小气啊，多么吝啬啊。
7. かぎ賃 / 闻味儿的钱。
8. 帳面につける / 记帐。
9. 借金 / 借钱、欠债。
10. かば焼 / 烤鳗鱼。
11. しめて / 全部加起来、总共、合计。
12. 食わせる / 给吃、让吃。
13. すまして言う / 若无其事的，漫不经心的。
14. いきなり / 猛地、猛然间、一下子。
15. チャリン / 咣琅。(象声词，指钱币掉在地上发出的声音。)
16. けいきのいい音をたてる / 发出清脆响亮的声音。
17. 銭 / 钱。(这是おかね这个词的老人用语。)

〔本文の中訳〕

只当是……

过去，有一个很财迷的男人。

每天一到吃饭的时间，他就到烤鳗鱼店的前边去，足足地闻够了香味儿，然后，飞跑回家，赶紧吃饭。

烤鳗鱼店的老爷子发现了这事，心说：“太财迷了，好啊，既然你是这种家伙，我收他的闻味钱。”

于是马上记帐，到了月底，就来到那个财迷男人家收钱。

财迷男人说：“我不欠烤鳗鱼店的钱！”

“不，不，这是烤鳗鱼的闻味儿费。嗯——一共是八百文。因为您闻了味儿就当是吃了，所以我们呢，也就只当给您吃了，因此才来收钱。”

烤鳗鱼店的老板说的是一本正经，财迷男人没办法，于是从怀里掏出了八百文钱，猛地摔在地板上。

当啷——！

随着那钱发出一声清脆响亮的声音，财迷男人大声说道：“好啦！你就只当是收了钱，听听这声音，回去吧！”

第 二 讲

一、平林

じ
字のよめない^{げなん}下男^{げなん}がおりました。

ある日、主人^{ひしゆじん}に、「医者^{いしや}の平林^{ひらばやしせんせい}先生^{てがみ}に、手紙をとどけて
おくれ」と、たのまれました。

ところが、とちゆうで、なんという名^なの医者^{いしや}にいくの
か、すっかりわすれてしまいました。

ちょうどとおりがかった坊^{ぼう}さんに、
「もしもし、この手紙^{てがみ}のあて名^なは、なんとよむのでござ
いましょう。」ときくと、坊^{ぼう}さん、

「これは、ひょうりんともよむし、へいりんともよむ。ま
た、たいらばやしか、

あるいはひらりんか、いち^{いち}はち^{はち}じゆう^{じゆう}の木^{もく}木^{もく}ともよむ。」

どれもこれもどうもちがうようで、どれがどれだかわか
らなくなった下男^{げなん}は、しまい^{おおごえ}にこまって、大声^{おおこえ}でよんで歩^{ある}
きました。

「ひょうりんか、へいりんか、たいらばやしか、ひらりん
か、いち^{いち}はち^{はち}じゆう^{じゆう}の木^{もく}木^{もく}の医者^{いしや}は、どちらかな——。」

二、なべ屋

「なべ^や屋でござい。」

なべ^う売りが、横^{よこ}町^{ちやう}にはいってきました。

「なべ^や屋さん、いいなべかい。」

「へいへい、上^{しょう}物^{もの}のなべでございます。」

なべ^や屋は、かごをおろすと、

「わたしどものなべは、ほしょうつきでございます。これ、このように。ごらんください。」

と、なべを^て手^もに持^じって、地^じ面^{めん}に^な投^なげてみせました。

「ほれ、このとおりの上^{じょう}物^{もの}で……。」

なべ^う売りがいったとたん、運^{うん}悪^{わる}く、なべがふたつにわれてしまいました。

するとなべ^う売り、それをさして、

「これ、このようなものは、売^うりませぬ。」

〔言葉の意味と用法〕

1. 字のよめない / 不识字、不认字。

△英語はすこし習ったが、新聞はまだよめません。(英语虽然学了一点儿，但还不能看报。)

△彼はカタカナはよめない。(他不认识片假名。)

2. 下男 / 男佣人，男仆。

3. 主人 / (1) 对客人而言的主人。

(2) 指一家之主。

(3) 指他人或自己的丈夫。

△ご主人はご在宅ですか。(您丈夫在家吗? 您爱人在家吗?)

△主人はでかけています。(我丈夫不在家。)

4. たのまれました / 被吩咐, 被命令。

5. なんという名 / 叫什么名字。

6. なんという名の医者 / 叫什么名字的医生。

7. なんという名の医者に行くのか / 去一个叫什么名字的医生那里呢?

8. 通りかかる / 正通过。(かかる表示该动作正在发生或即将完成。)

△死にかかる。(临死、将死、濒死。)

△倒れかかった橋。(就要倒塌的桥。)

9. 坊さん / 和尚。这是坊主(ぼうず)的敬称。坊主还表示对男孩子的爱称。

△家のぼうず。(我们家的秃小子。)

△いたずらぼうず。(淘气包, 淘气鬼。)

10. あて名 / 收信人、收件人姓名。

あてさき / 收信人、收件人地址。

11. 一八十の木木 / 这是把“平”字拆成了“一八十”，把“林”字拆成了两个“木”字。可以读成いちはちじゅうもくもく

12. どれもこれも / 不论是哪一个都……。

△どれもこれも似たり寄たりだ。(哪个都相差无几。)

13. どうも / 与ようだ和らしい等词呼应使用，表示虽然没有确切根据，但总觉得好像是……。

△どうも様子が変だ。(情况好像有点奇怪。)

△彼の言うことはどうもうそらしい。(他的话好象是谎言。)

△あしたはどうも雨らしい。(明天好象要下雨。)

14. なべ屋でござい / 卖锅人的吆喝叫卖声。ござい就是ございます。

15. なべ売り / 卖锅人。

16. 横町 / 胡同、小巷。

17. かい / 疑问助词かの较随便说法，在男子的口语中常见。

18. へいへい / 唯唯诺诺。(=はい)

19. 上物 / 上等的品物，上等货。

20. 私ども / 我们。(ども表示人物的复数。)

△子ども。(孩子。)

△女ども。(女人们。)

△おとなども。(大人们。)

21. ほしょうつき / 保管没错。

22. 地面 / 地上、地面。

23. 投げる / 摔、投。

24. ほれ / 嘿、喂。(=ほら)

25. とたん / 刚……就……。

△ドアにかぎをかけたとたんに電話がかかってきた。(刚锁上门就打来了电话。)

△仕事の一つおわつたとたんにまた一つ次の仕事
が来た。(一个工作刚结束，下一个工作又来了。)

△のむととたんに病気がなおる薬はない。(没有一吃就灵的药。)

〔本文の中訳〕

一、平 林

过去有一个不识字的男仆。

有一天，他被主人吩咐道：“把这封信送到医生平林先生那去。”

可是，在途中，他完全忘记了要到一个叫什么名字的医生那里去。于是，便问一位过路的和尚：“对不起啦，您看这封信的收信人的名字怎么念？”

和尚回答道：“这个嘛，可以念ひょうりん，也可以念へいりん，还可以念成たいらばやし，还可以念成ひらりん，还能念成いちばちじゅうのもくもく。”

男仆听了觉得哪个都不象，他也搞不清哪个对哪个啦。最后，他没有办法，就大声地喊着朝前走。

“人名叫ひょうりんか、へいりんかたいらばやしか、ひらりんか、一八十の木木的医生是哪位啊。”

二、卖 锅 人

“买锅啰——！买锅啰——！”

卖锅人走进一条胡同。

“卖锅的，是好锅吗？”

“是啊，是啊，是上等的锅啊！”

卖锅人放下筐说：

“咱这锅，保管错不了，瞧瞧啊！”

说着拿起一只锅往地上摔给人家看。

“嘿！您瞧啊！这上等货是……”

卖锅人话音未落，真倒霉，那锅一下子摔成了两半，只见卖锅人手指那破锅说道：“嘿！看呢！这种货咱是不卖的。”

第 三 讲

こじきとふくのかみ

こじきが、ぼろぼろの ふくろを かつぎながら、まちを あるいて いました。

あるきながら、ひとりごとを 言って いました。

「どう して、おかねもちと いう ものは、おかねやものを、たくさん、もって いる うえにも、なお、もっと ほしいのだろう。人^{ひと}と いう ものは、その 人^{ひと}のみに ついた ぶんと いう ことを、しっていないてはいけな

いけな

その とき、どこからか、ふいに ふくの かみが あらわれました。

「わしは おまえの いまの ひとりごとを きいて、かんしん したよ。ちょうど、よい ぐあい

に、ここに きんかを たくさん もって いるから、おまえに みんな やっても よい。さあ、その ふくろへ いれて やろう。」

こじきは よろこんで、ふくろを ふくの かみの まえに、だしました。